

日赤福島県支部による「青少年赤十字 詩・100 文字提案」作品募集 ～参加校の先生からのコメント

(2015 年度作品募集に参加いただいた各学校のご担当の先生からのコメントをもとに作成しています。)

郡山市内の小学校の先生から

この度は、本校児童の作品を取り上げていただきまして、ありがとうございました。

今回の「誌・100 文字提案」の作品づくりにおきましては、低学年の児童ということもあり、ご家庭に本作品出品の趣旨を申し上げ、お子さんと対話しながら書かせてもらいました。学校では、子どもたちに何について書くかを事前に選ばせました。その際に、命の大切さ、夢を持つことの意味、ボランティアの精神についてなど、子どもに分かる範囲で触れ、この作品を書くことで「生きているっていいな」「人とつながるっていいな」という思いを感じ取れるとうれしいという私の願いを伝えました。

本学級では、全児童 21 名の内、19 名の児童が作文を書いてきました。中には 2 つのテーマで書いてきた子どももいました。実際、書いてきた詩や作文を読みながら、学校の出来事だけでなく、担任の知らない家庭での出来事や姿、思いが文章から垣間見え、胸が熱くなったりほほえましく思ったりしました。

小学生の子どもたちは、一年一年の成長が大きいものですので、その年々に感じることや考えが成長とともに変化して行くと思われまます。毎年この詩・100 文字提案作品を書くことで、命や愛について見つめ直す良い機会になりますし、子どもたちの心の成長を感じることができると思います。

言葉にすることで自分の思いや夢がはっきりします。感動したことを文章にすると、その気持ちがよみがえってまた幸せになれます。文章を書くことは、心をじっくりと耕すことができるとても良い手段だと考えております。これからもぜひ、子どもたちがこの作品づくりを続けて、自分の心と対話して欲しいと思います。また、他の友達の作品を読んで共感できることで、さらに大きく心を成長させて欲しいと願っています。

伊達市内の小学校の先生から

本校の児童は祖父母と一緒に生活している子が多く、日頃よりそのつながりが深いと感じています。

今回受賞した児童も祖父母の隣りに住んでおり、一緒に遊んだり手伝いをしたりする機会が多いと聞いています。祖父が様々な野菜を作って児童の家へ届けてくれ、新鮮でおいしい野菜が食卓にのることが多いようです。野菜作りをする祖父の姿を目にすることも多かったと思います。心をこめて作った野菜からは祖父の愛情が感じられますし、児童の祖父への感謝の気持ちが伝わってきました。届けられるものがいろいろな野菜だけでなく「笑顔」というところが温かくすてきだと思いました。

毎週土・日曜日の宿題の作文があるため、家庭での様子が分かりコミュニケーションを図るための材料にもなっています。

本学級の児童の様子を見てみると、偏食が多く、とくに野菜を食べない(苦手な)子が目立ちます。震災(放射線)の影響で野菜を食べさせなかったという保護者もいます。私自身も最近まで地元の野菜、県内の野菜を口にすることに抵抗がありました。そんな中で、安全性が確認され現在に至っているということは喜ぶべきことです。

食べ物への感謝、作る人への感謝、生きることへの感謝を子ども達と考える機会を大切にしていきたいと思っています。

未来を担う子ども達の願いや感動、夢や希望をこれからも素直に表現できるように関わっていきます。

郡山市内の小学校の先生から

「詩・100 文字提案」は、子ども達が自分の夢や未来、家族についてじっくりと考えることのできる、とても良い機会になっています。特に、今回受賞した子どもの場合は、普段なかなか家族にも将来の夢について話すことはなかったようですが、作品を読んだ母は、自分と同じ職業を目指そうとしている子どもの思いを初めて知ったようで、嬉しくて涙ぐんでいました。家族の絆も深める「詩・100 文字提案」に取組み、とても良かったです。ありがとうございました。

いわき市内の小学校の先生から

「100文字提案作品出品に当たって」

① 作品出品に込める思いについて

赤十字の精神に基づく、だれにでもある心にやさしさや思いやりを、いろいろな人にあげたり、いただいたことへの感謝の気持ちを持ったりしてもらいたいという思いを持っています。そして、その時の気持ちを文章に表現し、振り返ることで、更に人への思いやりの心が高まって欲しいという願いもあります。

② 子どもたちの作品に取り組む姿について

子どもたちは、日頃の生活の中で感じた事や体験したことを、思い思いに書き表していました。特別な事柄ではなく身近な所から心に残ったことを文章に表現しており、低学年も無理なく取り組むことができました。

③ 100文字提案作品への取り組みせ方

日頃の生活の中での事柄を思い起こさせ、学校内外を問わず特に心に残ったことを中心に取り組ませました。また、学年に応じて、各担任の先生にご指導をお願いしました。指導にあたっては、子どもたちの思いや伝えたい事を第一に考えた指導を行いました。

須賀川市内の小学校の先生から

<担当の出品に込める思い>

100文字と言う字数が子どもたちにとってはとても取り組みやすいものなので、できるだけ多くの児童に参加させたいと思い全学年の児童に参加を呼びかけています。テーマもいくつかの中から選べるので、子どもたちの日頃の様子などを参考に発達段階に応じて指導しました。

<子どもたちの作品作りに取り組む姿>

本校では各学年毎に指導に当たるので、それぞれ指導の仕方が違いますが、高学年は一斉指導した後、家庭学習に持ち帰らせ、家族とも話し合う時間を取りました。その中で、自分なりの考えがまとまっていったり、新たな気づきが生まれたりしていくようです。また、家庭での話し合いにより家族の触れ合いも深まったようです。

岩瀬郡内の小学校の先生から

<5年生担任より>

- テーマを与え、授業で全員に自由作文としてまず取り組ませた。
- 分量が少ないため、取り組みやすく、素直な気持ちが表現できたのではないかな。

<2年生担任より>

- 100文字提案作品のために書かせたのではなく、日々の作文帳の中から、すてきな作品を児童に紹介したり、用紙に書き直させたりして、作品を仕上げた。

郡山市内の小学校の先生から

- 指導するときに視点が設けられていたので、その中から、自分の思いや考えが一番あると思うものを選ばせることができました。また、自分の書こうとすることをはっきりさせることができました。
- 100文字しかないので言いたいことをストレートに言うこと。たくさんあったらいらぬ部分を削るように指導しました。
- だれにでも言えることではなくて、具体的に表現するように話し、書かせました。

福島市内の小学校の先生から

本校では昨年度から全校生で参加させていただいております。

子供たちにとって詩や100文字で自分の考えを書くことは、作文と違って字数的にも考えやすいようです。また、テーマも取り組みやすい内容であるため、書き始めてから短時間で仕上げることができました。

子供たちの作品を読みますと、目頭が熱くなる作品がたくさんありました。子供たちは人との出会いから自分なりに考え、行動に移していることが分かりました。これは、青少年赤十字の「気づき・考え・実行する」という考えにつながっているのではないかと思います。

この「詩・100文字提案」への参加を通して、「気づき・考え・実行する」ことができる子供たちをこれからも育てていきたいと思っております。

二本松市内の小学校の先生から

今回の「詩・100文字提案」作品の募集に関し、最優秀賞に推薦いただきありがとうございました。

以下、指導者としての思い等、述べさせていただきます。

今回の募集に際し、5年生の学級全員に取り組みさせることとしました。

100文字は、400字詰め原稿用紙に置き換えると1/4の文字数です。

それでもなかなか書けない子どももいます。何を書いているのかわからないと言います。

現5年生は、震災時は幼稚園年長児なので、ただ怖かったという思いしかないようでした。

したがって、高学年の仲間入りをした5年生に、毎朝全員で行っている朝の清掃ボランティアのことについて書くよう指導しました。

毎朝、どのような気持ちで清掃ボランティアをしているのか、正直な気持ちを書くよう指導しました。その正直な気持ちを書くだけで100文字になることを伝えると、子どもたちはとても気が楽になったようです。

今回、全員で作品作りに取り組むことで、子どもたちそれぞれが高学年としての自覚を再度持ったように思われました。子どもたちの意識を高めるためにも良い機会となりました。

いわき市内の中学校の先生から

「詩・100 文字提案作品出品にあたっての指導者の思いなどについて」

本校は、部活動として JRC(*)活動に取り組んでいます。特に奉仕の精神を大切に、社会のため、人のためにつくす責任を自覚できるような活動をしています。「縁の下の力持ち」をキャッチコピーにしています。しかし、一人一人の力は小さく、また、中学生であることで活動の限界を感じることもあります。そのような中、生徒が自分たちの力を合わせて何かできることはないかと日々考えた部活動を行っています。例えば、校内や学区内の清掃活動、エコキャップの回収、募金活動などがあげられます。ごみ拾いや、募金も一人では限られていますが、みんなの力が合わされば、ごみもたくさん拾うことができ、募金も金額が大きくなります。一人一人の小さな積み重ねが大切だと感じているようです。世界各地で起こっている災害に私たちがどのようにすれば良いかなどは、よく話にのぼります。東日本大震災を経験したことで、日本各地、世界各地からの応援に励まされていることを知り、恩返しをしようという気持ちが生徒の中にあります。このような日々の活動で印象に残ったことを「詩・100 文字提案」に書かせました。

*JRC: 青少年赤十字

福島市内の中学校の先生から

夏の青少年赤十字福島県指導者講習会に参加して、「何か子どもたちに地域のことを考えさせたい」と思っていたところ、回覧で詩・100 文字提案の知道了。夏休み中に知り、8 月中という提出期限だったので、指導という指導は正直できませんでしたが、地域交流活動での体験や今までのボランティア活動のことを振り返らせながら書かせました。「全員が書くの?」「作文嫌だー!」と最初は言った子どもたちですが、100 文字という手軽さからすんなり書ける子が多かったように思います。

私のクラスには、自分の気持ちをうまく言葉にできない子がいます。その子が授業の時間内にしっかり自分の考えを書けたということが強く印象に残っています。それくらい題材が身近なもので、普段は何も考えずに生活しているように見える子でも、福島、震災、地域、自然、いのちのことをしっかり自分なりに考えているのだと思いました。100 文字作文に取組み、生徒が自分の思いを素直に表現できる機会をいただけて良かったです。ありがとうございました。

須賀川市内の中学校の先生から

大変お世話になっております。

「詩・100 文字提案」は、ここ数年取り組ませていただいております。主に、担当している学級で、それほど時間を取らずに書くことができるので、大変取り組みやすい題材です。生徒たちも、短い時間ではありますが、「いのち」や「愛」や「震災」について考える時間になっており、しんとした中で、作文や詩を書くことができます。

また、入賞者も多く出していただき、生徒の励みにもなっております。

今後とも応募して行きたいと思っております。よろしくお願いいたします。